



皆さんの悩み、お聞きます

ケアラーの窓から

Vol.26

見守り活動 町内会の私たちに できること

Profile

朝日4丁目町内会会長 **古瀬 一芳** さん
 生活安全部長 **丸山 富子** さん

【朝日4丁目町内会】昭和53年からの宅地造成事業以降、新興住宅街として発展し、戸数は増加の一途をたどる。現在では286戸が加入する地域となり、加入率も100%に近い数を誇る。



①二人の言葉からは「地域の役に立ちたい」という強い思いが垣間見れます②自宅訪問を通じた見守り活動を行う様子③笑顔を見せる古瀬さんと丸山さん

協力者たちの声から 始まった活動

朝日4丁目町内会の会長を務める古瀬さんと生活安全部長の丸山さん。地域の役に立ちたいという思いから、定期的な自宅訪問を通して見守り活動を行っています。

日頃からの見守り活動

丸山さんによると、見守り活動を始めたのは4、5年ほど前。きっかけは、町内会独自で行っている有志による登録制ボランティアでした。「日常のお手伝いや災害時の救護など、役員以外でお手伝いいただける方を募る活動を行っています。その中で高齢者の見守りの必要性が話題に出ました」と振り返ります。

以降、町から提供される『避難行動要支援者名簿』を参考に、ケアが必要な方の一覧を町内会で作成し、同部の副部長や民生委員とも連携し訪問するようになりました。

訪問先のケースは一人暮らしの高齢者、障がいを持つ方などさまざま。訪問のほか、町内でお会いした際や会合でも気軽に話しかけるよう

に意識しているとのことでした。

「以前、病気を抱える方々の家を訪問しました。私も同じ病を患ったこともあり、一緒に考え共感し、安心してもらいたいと思いました。当事者同士でゆっくり話すことができました」と振り返ります。

丸山さんは現在、がんの語り部としての活動や防災士の資格も取得。「誰一人も取り残すことない地域になつてほしい。支え合いの気持ちや必要知識も伝え、安心して生活が送れるサポートをしたい」と強い思いを語りました。

「ケアラー」としてではなく、町のケアラー支援推進協議会の委員も務めている古瀬さんですが、「町内会としては、特別ケアラーの言葉と意識して活動しているつもりはありませぬ。見守り活動は自然で当たり前と思っています」と話します。その言葉からは「人の役に立ちたい」という日頃からの気持ちが伺えます。

最後に、能登半島地震の話にも触れた古瀬さん。「日頃の繋がりが、有事の際にも発揮できるように活動を大切にしたい」と話していました。

※避難行動要支援者名簿・・・災害時に特に支援が必要な方の情報を町が支援実施に携わる関係機関へ提供する名簿です。

栗山学び隊 No.45

地域で輝く介護福祉学校と栗山高校に通う皆さんの様子をお届けします

ものづくりの視点から介護を考える

中林 聖翔 さん (左) 須河内 奏太 さん (右)

(北海道介護福祉学校2年)

介護の課題をものづくりの視点で考える「地域活動研究・生活支援グループ」で活動する二人。ものづくりDIY工房「ファブラボ栗山」協力のもと、防災をテーマに避難所での介助を想定した福祉用具を制作しました。

須河内さんの班では段ボールベッドの使用を想定し「力の弱い高齢の方でも組立てをスムーズにしたい」と考え、留め具を開発。もともと建築関係での経験もあり「得意分野で理想の用具ができてよ

かった」と話します。

一方、中林さんの班では「マグネット式トイレの手すり」を開発。アイデア出しにかなり苦労したと話しますが「トイレを空間として考え、ホワイトボードなどで仕切る仮設トイレスペースを想定しました。足腰の悪い方の立ち座りを補助する用具案が浮かびました」と振り返ります。

自分たちのアイデアを形にすることができた二人。本内容は活動報告会(折込チラシ参照)でも発表予定です。



(左) ファブラボ栗山での活動の様子 (右) 制作した留め具

白熱した試合！ 栗山高校球技大会が行われました

栗山高校で冬の一大行事「球技大会」が12月22日、スポーツセンターで行われました。

3年生が引退し、新体制となった生徒会を中心に企画や当日の運営を担当。生徒会長の田上陽花さんは「怪我をしないように全力で楽しんでください」とあいさつしました。

種目はクラス対抗ミニバレーボール。男子9チーム、女子15チームが予選と決勝トーナ



メントを行い、男子は3年2組、女子は2年1組が優勝しました。各チームの順位点で決まる総合優勝は、チームワークの良さを発揮した3年2組。白熱した試合が終始繰り広げられ、盛り上がりを見せていました。

田上さんは「全生徒が楽しめる企画を考え、思い出に残る行事にできて良かったです」と話していました。